

あさひの日だまり

NO.34

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～学校評議員会・あさひ運営委員会を行いました～ 学校運営へのご意見をいただきました

12日(木)に学校評議員会とあさひ運営委員会を開催しました。この会は年に3回開かれます。今回の主な目的は、今年度の辰野東小学校の学校運営の方向に対するご意見をいただくこと。来年度の運営方針をお示ししてご意見をいただくこと。この2点でした。加えて、授業参観をしていただきましたので子どもたちの学習の様子についてや子どもたちのことに関して日頃感じておられること等諸々のことも含めてご意見をいただきました。

まず私から来年度の学校運営の方向についてお話をさせていただきました。

一番大切にしたいことは「楽しい学校」作りに教職員と子どもたちが力を合わせて取り組んでいきたいということです。そのことについて下のようなことをお伝えしました。

まず、「楽しい」と感じる瞬間は学校の中のいろいろな場面がありますが、「充実感と満足感」と結びついた「楽しさ」を大切にしたいと思います。そして、「充実感や満足感」を感じるためには、子どもたちが課題や挑戦したいことを見つけて自ら「挑戦」する姿を促したいと思います。「挑戦」の結果がうまくいけば素晴らしいですし失敗したとしても挑戦したその姿勢を褒めてあげたいと思います。子どもたちにとって「挑戦」できる場面を私たち教職員ができるだけたくさん用意してあげたいと思います。

二つ目の大きな変化として、来年度から3学期制を2学期制へ移行したいということをお話しました。その概要は参観日で保護者の皆様へお話ししてまいります。

その後各委員の皆様から下のようなご意見をいただきました。いただいた意見を先生方と共有させていただきます。先生方の励みになるご意見が多かったので本当に嬉しい思いです。これからも子どもたちのために一層教育活動に励んでまいります。

- ・なかよし班がいいなと思う。上の子が下の子の面倒を見てあげる。家へ帰ってきて「面倒を見てあげたんだよ」と話してくれることが嬉しい。
- ・縦割り清掃で一緒に掃除をしている年下の子から「家へ遊びに行っていていい？」と言われたんだよと話してくれた。仲良くやっている様子が伺えていいなと思う。
- ・「たつのこ学舎」があってとてもありがたかった。学校へ来づらくなった時に声をかけてもらって「短時間でもいいからここで過ごしてみたら」と言ってもらえた。1年間が過ぎて今はクラスで生活できている。本当に感謝している。他の小学校の子どもたちも受け入れているということなのでそのことを他の小学校でも保護者に知らせて欲しい。
- ・この役をやらせてもらえて自分の子ども以外の学年を見られるので良かったと思う。1年生は可愛いなと思った。
- ・5年生や6年生くらいになると授業中落ち着いているけれども、3年生が落ち着いて授業を受けていて感心した。
- ・防災教育を学校と地域が協力してできたらいいと思う。ぜひ学校でも取り組める機会を持ちたい。
- ・こうやって学校へ来て授業を觀させてもらうことはできたけれど、地域コーディネーターとして何ができたかというところと少し不安になる。
- ・「楽しい学校」を目標にして子どもたちを迎えてくれているので子どもたちが楽しそうに生き生きしているように見える。子どもによっては集団の中に入っていけない子がいるかもしれない。そのような子どもへの配慮はどうしているのか。
- ・紙に「今学期の目標」というようなことを書いて掲示しているところを見かけるけれど、辰野東小学校では何かに「挑戦」しようとそういうように一斉に決めたりしていますか？ そうやって紙に書いて満足するみたいになりがちなので自然体で何かに「挑戦」できるようにしてあげて欲しい。

- ・私の子どもたちは辰野町が大好きでした。辰野町には良いところがたくさんあります。きっと故郷を思う心があるのでやがては帰って来たいと思っていると思う。
- ・2学期制はよいと思う。半年くらいの長いスパンで子どものことを考えてあげられるところがよい。長いスパンで子どもたちが目標を実現できたと思う。確かに3学期は2ヶ月で通知表を書くというのは難しいと思う。
- ・授業を参観させていただくとそのたびに色々な発見がある。今回は2年生の教室で「人権の木」というのを見せてもらった。子どもたちはよく考えているな～と感心した。
- ・6年生の授業を観させてもらって、6年生になると世の中を広く見ているところに感心した。
- ・「主体性」を大切にしたいということだが、子どもたちは自分が困ったらどうしたらいいかを自分で考えることが大事。親が押し付けるのではなく子どもが自分で考えることを大切にしたい。
- ・私が小学生の頃は学校へ来て給食を食べることが楽しかった。家へ帰れば手伝いが待っていた。「楽しい学校」というように学校へ来るのが楽しいというのはいいことだと思う。
- ・前のあさひの日だまりで、保護者からの学校評価に校長先生が答えているところがあった。ああやって丁寧に誠実に答えていくことで家庭と学校の間に信頼関係が結ばれていくと思う。
- ・校長先生が自ら「挑戦」する姿を示すことで、先生方も挑戦することができてそれが子供たちの成長へつながっていく。
- ・3年生とすれ違った時挨拶をみんながしてくれてすっきりとした良い気分になった。
- ・学級数が減り子どもたちの数が減ってきている中で縦割りが必要になってくると思う。
- ・3年生の書道が太くしっかりしていてすばらしい。
- ・先生方が「楽しい」すがたを見せることが原則。子どもたちはそういう先生の姿を見本にしてくれている。
- ・地域コーディネーターをしていると子どもたちのために手を貸してくれるのは高齢化した人たち。若い方を探していくことが悩み。
- ・地域コーディネーターとして何をしたらよいかわからなかった。こちらから声をかけていくのか学校からの声かけを待っていたらいいのか。(コーディネーターの皆さんと懇談会を持たせていただきたいとお願いしました)
- ・子どもたちが伸び伸びとしている。先生方の服装が昔の背広とネクタイから変化してきていてそれが子どもの姿に移っているそういうところがいいと思う。
- ・話しかけてくれる子どもが一人しかいなくてさみしかった。

～6年生対象に性教育講演会が行われました～

自分と周囲の人を大切にしたい

10日(火)に駒ヶ根のおひさま助産院の小林先生をお招きして6年生を対象にした性教育講演会を開きました。

私も一緒にお話を聞かせてもらいました。



1つの卵子に数億個の精子が関わること。その中のほんの1つか2つの精子が受精をして今の自分がここにいるということ。そんな奇跡的にいただいた大切な命を持つ自分をそして友達をぜひ大切にしたいということ。産道を通して産まれてくるということは赤ちゃんにとって本当に大変な出来事であり、その経験乗り越えて今ここにいる皆さんはこれから先の困難乗り越える力をすでに備えているということ。

私は小林先生に「命の誕生」について新しい見方や考え方を与えていただきました。きっと子どもたちにとっては初めて知ることが多かったと思います。理解でき

ないこともあったと思います。これから先の未来「あっ このことだったんだ」と今日のことを思いだし、「大切に考えよう!」と立ち止まるきっかけになって欲しいと願います。